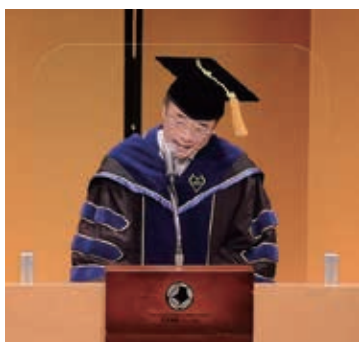




THCU Chronicle *Heart*

No.32 Summer 2021

第32号



【上段】令和3年3月19日(金)「令和2年度東京医療保健大学・大学院学位記授与式及び助産学専攻科修了式」(めぐるパーシモンホール)
 【中断】令和3年4月7日(水)「令和3年度東京医療保健大学・大学院及び専攻科入学式」(東京国際フォーラム)
 【下段】令和3年4月4日(日)「令和3年度東京医療保健大学 和歌山看護学部・大学院和歌山看護学研究科入学式」(和歌山県民文化会館)

CONTENTS

目次

- 2 学長就任のご挨拶
- 3 COVID-19対策本部より
- 4 医療保健学部 看護学科
- 5 医療保健学部 医療栄養学科
- 6 医療保健学部 医療情報学科
- 7 東が丘看護学部 看護学科
- 8 立川看護学部 看護学科
- 9 千葉看護学部 看護学科/大学院 千葉看護学研究科
- 10 和歌山看護学部 看護学科
- 11 大学院 医療保健学研究科
- 12 大学院 看護学研究科
- 13 大学院 和歌山看護学研究科
- 14 助産学専攻科/産後ケア研究センター
- 15 放射線看護研修センター
- 16 令和2年度各種国家試験受験結果一覧
- 17 令和2年度卒業生学科別進路状況
- 18 令和3年度学生募集に係る入試実施結果
令和2年度決算報告
- 19 同窓会
- 20 国際交流/Topics

新たな飛躍に向けて



4月1日より、木村 哲前学長（名誉学長）先生の後任として本学学長に就任いたしました。どうぞ、皆さま、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今春、千葉看護学部と和歌山看護学部の看護

学科にそれぞれ新入生を迎えたことにより、全学部看護学科すべてに1年生から4年生が揃い、看護学科学学生数は国内で最大規模となりました。さらに大学院についても、昨年の和歌山看護学研究科の新設につづき、千葉看護学研究科が新設されました。学部と併せて、ほぼ大学の体制が固まってきたところです。学部や大学院のある各キャンパスは、東京都、千葉県、和歌山県に分散しておりますが、各キャンパスの皆さんがそれぞれの持ち味を発揮して活動し、同時にお互いが切磋琢磨して将来の立派な医療人を育成していただきたいと願っています。もちろん、本学の建学の精神や教育の理念・目標というところでは、一致団結して進んでいただきたいと念じております。また、本学の特色としては、学生が最先端の中核医療機関において高度な医療を臨地実習で学べることが挙げられます。今後とも、連携協定しているNTT東日本関東病院、国立病院機構東京医療センター及び災害医療センター・村山医療センター、地域医療機能推進機構（JCHO）船橋中央病院、日赤和歌山医療センターをはじめ多くの医療機関とさらに連携を深めてまいります。

2017年には、10年先を見据え、本学が医療保健系大学として社会に果たす役割を明確にするために、大学の建学の精神・教育の理念に基づいた、6つのビジョンを策定しました。改めて掲げますと、①先進的な教育・研究・社会貢献を通じ歩先の医療保健を創造、②専門性の高い心温かい医療人の育成、③すべての医療人の生涯学習支援、④世界をリードする先進的研究の推進、⑤地域と連携・共生し、社会に貢献、⑥多文化共存の開かれた大学教職員の研鑽、となっております。今年度は、各ビジョンを具体的に推進するアクションプランの実行状況を把握し、その取り組みを分析評価して、次の中期目標や計画に反映させてまいります。改善のサイクルを組織の中できちんと機能させて継続することで、本学のさらなる発展に繋がたいと考えております。

昨年度と同様、本年度もCOVID-19はまだ感染が収束する気配は現時点では全くありません。今後も、もう少しの間、遠隔授業と対面授業とのハイブリッド形式による授業が続くと思われ、学生の皆さんにはご辛抱いただくことが予想されます。感染動向を踏まえながら、機動的に対面授業の制限レベルの強化・緩和等の措置をとります。すべての学生及び教職員の健康と安全には引き続き十分に留意してまいります。

これから先の社会のことですが、ポストコロナの時代になると、その前から存在していた日本の社会構造の変化による課題は継続します。65歳以上の高齢者人口は今後も増加を続け2040年頃にはピークアウトする、65歳以上の人口割合（高齢化率）は2040年以降も増加が継続していく、それを支える15歳から64歳の人口（生産年齢人口）は実数も比率も減少していく、等のことが推測されています。高齢者の増加により、認知機能や身体機能が低下した患者さん、さらには独居世帯の方が増え、そのケアの在り方が大幅に変化することが想定されています。国としては、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、「要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制」、すなわち“地域包括ケアシステム”の体制を整備しつつあります。しかし、超少子高齢かつ人口減少社会では医療・介護のニーズを現状の医療従事者数で支えていくのは困難が予想されています。こうした点の課題解決は、本学としてビジョンの⑤で掲げている『地域と連携・共生し、社会に貢献』していくことにもなりますため、全学でいろいろな角度から取り組んでいくべき課題と考えております。

本学の規模は医療保健関連の大学では、国内で最大規模となりました。私もひしひしと重責を感じておりますが、本学の発展のために微力ながら全力を尽くしてまいります。皆さまにおかれましては、引き続き本学へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

東京医療保健大学
学長 亀山 周二

Profile

亀山 周二 (KAMEYAMA SHUJI)

1981年東京大学医学部卒業。医師/医学博士。専門は、泌尿器科学。1999年4月に（旧）関東通信病院泌尿器科部長、同年7月NTT東日本関東病院泌尿器科部長、2013年4月同副院長、2014年7月～2021年3月まで同院長を務めた。院長在任中は、ロボット支援手術・がんゲノム医療・ゲノムドック等の新規技術の導入や、医療の質の改善活動（JCI、ISO15189、JMIP等）・チーム医療・国際化・地域連携・働き方改革等を推進した。2007年4月から2014年6月まで東京医療保健大学保健学部看護学科臨床教授、2014年7月から2021年3月まで同教授（非常勤）。



東京都緊急事態宣言解除：オンラインを併用し週2回の対面授業を継続

感染者の増加に伴い、4月下旬に東京都緊急事態宣言が発出されました。東京都知事の要請を受け、本学では東京都内キャンパスの対面授業制限レベルを「レベル4」に引き上げました。これにより対面授業の回数は「週2回・午後のみ」となり、オンライン授業と併用する形で授業を継続いたしました。和歌山キャンパスにおいても隣接する大阪府の影響を受けて感染者数が増加したため、同様に「レベル3」への引き上げを行って登校回数を「週2回・2～5時限」に減らしましたが、6月に入って感染者数が減少したため「レベル2」に緩和して「週3回・2～5時限」の対面授業となりました。

学生の皆さんの安全を護りながら同時に充実した学修や学生生活を維持するためには、日々変化していく感染状況を客観的に評価し、現状に即した対面授業制限レベルを設定していくことが重要です。このため4月に入ってから本学では毎週感染状況の評価を行い、きめ細やかな対応を行っております。現下の状況では、対面授業制限レベルの変更が頻繁に発生して学生の皆さんも対応に追われることと思いますが、厳しい状況の中で少しでもよい学修環境を作れるよう努めますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

「大学生生活の総合的な満足度」74～86%の学生が肯定的評価

本学では学生の皆さんに「学生の学修に関する実態調査」を実施しています。昨年度から5学部7学科で一斉調査となりました。その結果、学年によって違いはありますが74～86%の学生から肯定的な評価（満足、やや満足）を頂きました。

この調査では、例年貴重なコメントを頂いています。今回の調査では、特に遠隔授業に関するご意見が多くみられました。オンラインになって学びやすくなったとのご評価も頂いている一方、教職員のICTスキルがばらついているなど厳しいご意見もいただきました。本学としては、先般文部科学省から採択頂いた「デジタルを活用した大学・高専・教育高度化プラン（Plus-DX）」などの補助事業も活用し、学生の皆さんによりよい環境を提供するよう努力してまいります。

首都圏キャンパス：唾液によるPCRモニタリングを実施

内閣官房及び自治体からの依頼により、首都圏キャンパスでは「新型コロナウイルス感染症拡大の早期探知のためのモニタリング」を行いました。学生支援センターを中心に4月下旬に教職員向けの試行を行った上で、5月11日を皮切りに各キャンパスで学生対象の検査を開始いたしました。これは学生に唾液を自己採取いただく方式で、検査結果は後日各自のスマートフォンに通知されます。検査費用は国費負担のため無料です。

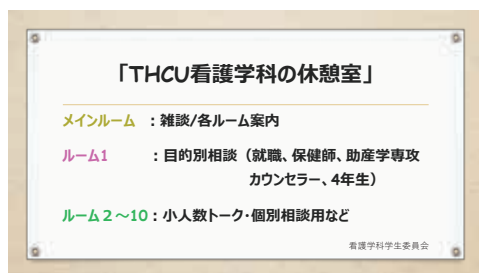
こうした検査機会を提供し、安心できる環境で対面授業を継続するという取り組みは全国的にも新しいものでした。このため、本学での取り組みは日本経済新聞、読売新聞、産経新聞などでも取り上げられました。



PCR検査を受ける医療保健学部看護学科2年次生

Zoomを使って「THCU看護学科の休憩室」を開催 — コロナ禍でも出会おう、つながろう —

昨年度は、コロナ禍での学生生活となり、学生も教員も戸惑うことが多く一年でした。今年度も引き続き感染対策を取りながらの生活となっておりますが、看護学科学生委員会では、昨年度末、新年度を迎える前に少しでも学生の皆さんが不安を解消したり、気持ちをリフレッシュできるよう、Zoomを活用して雑談や相談ができる「THCU看護学科の休憩室」を実施致しました。



「看護学科の休憩室」は、はっきりした相談がある方はもちろん、何となく立ち寄ってみたいという人も参加できるように致しました。令和3年3月5日の12:00～16:00までZoomの部屋を開け、看護学科の1～3年生までの学生であれば、誰でも自由に入出りできるように致しました。

休憩室は、関心のある専門窓口に相談できるよう、地域看護学領域の先生や助産学専攻の先生、カウンセラーの原田先生、就職対策委員会の先生、学生支援センターの相原さんにも参加いただきました。さらに、卒業間近の4年生数名にも参加してもらい、自身の国家試験対策や就職活動の体験をもとに、1～3年生の相談にのっていただきました。参加してくれた4年生の中には、4月から助産学専攻科に進学される学生さんもいました。コロナ禍で実習、就職活動、進学試験、そして国家試験対策を乗り越えて来た先輩の話は、

たくさんの勇気とあたたかい安心感にあふれており、これから実習や就職活動をする1～3年生にとって、とても貴重なものとなりました。

また休憩室に、坂本学科長先生も参加して下さり、学生の皆さんへの応援メッセージを頂きました。コロナ禍で学生生活を送る苦勞をねぎらうお言葉の他に、学士力についてもお話し下さり、「出会い」を大切に、困難な状況にあっても機会をみつける人であってほしいという、「へこたれない力」で背中をそっと押して下さるメッセージを頂きました。

「看護学科の休憩室」は、初め、直接会えないことで消えてしまった雑談ができる場を作ろうと考え企画致しました。そのため最初は、おしゃべりできる場として、「おしゃべりルーム」と名付けていました。しかしながら、「何かを話さなきゃ」と思わなくてよいよう、人の雑談を聞いたり、その場にいただけでも安心して参加できるようにという思いを込めて、「THCU看護学科の休憩室」という名前に変更致しました。コロナ禍で、直接挨拶をしたり、ちょっとした声かけや雑談ができない状況が続いています。「わざわざ相談するほどでもない」、「わざわざ質問するほどでもない」こと、直接顔を会わせていた時には、何の苦勞もなく、さりげなく話して解決できていたこと、そんなさりげない関わりができなくなっています。このようなちょっとした関わりは、人とのつながりを知らないうちに、豊かにしてくれていたように思います。そんなつながりができにくい状況が続いていますが、Zoomで実施する休憩室だからこそできることもたくさんあります。気軽にふらっと相談できる、質問できる、出会ってつながることができる環境を今年度も引き続き作っていきたいと思っています。

学生委員会

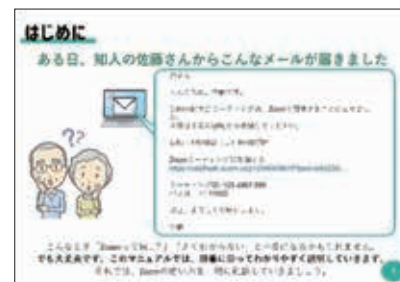
「新生活様式」に合わせた地域貢献の取り組み

地域看護学領域では地域の健康問題の予防や災害時の助け合いの一助になることを目指し、絆・つながりを強めるための地域貢献事業を学生とともに行ってきました。保健師選択学生との福島県新地町被災高齢者共同住宅被災地支援や締結を結んでいる品川区の住民を迎えた2年生地域保健活動演習での「健康づくりの会」等を開催しており、2019年5、6月の「健康づくりの会」では、延人数273名の参加がありました。しかしながら、2019年末に発生したCOVID-19の影響から、2020年度は様々な地域貢献事業を断念することになりました。

私たちは、今だからこそ、絆・つながりを強めた地域貢献が重要と考えています。そこで、学長裁量経費を頂き「新生活様式」に合わせた取り組みについて検討いたしました。その一部として、被災高齢者共同住宅に住む方々に各個人に向けた2016年からの思い出やメッセージを記載したフォトブックの進呈、在宅介護支援センターと共同したZoom映画上映会の開催、ご高齢の方の交流機会が増えるよう「やさしいZoom使い方マニュアル（パソコン用・スマホ用）」の作成等を行いました。

2021年度「健康づくりの会」はZoomでの開催となります。これまでの参加者にはマニュアルを送付しており、参加できる方が少しでも増えれば願っています。

是非、「やさしいZoom使い方マニュアル」を活用されたい方はお声かけください。皆様にご活用いただきたいと思います。



地域看護学領域

新任教員紹介



本年4月1日付で医療栄養学科の教授に就任した御堂と申します。担当は、主に食品学、食品加工学になります。どうぞよろしくお願い致します。

私は、これまでに明治製菓(株)(現MeijiSeikaファルマ(株))、(株)東洋新薬、クノール食品(株)(現味の素食品(株))と複数の企業で通算33年間を過ごしてきました。

キャリアの大半は研究開発でしたが、後半は、部長として、品質保証部門や工場管理部門のマネージャーも務めました。そのため、研究、商品開発、工業化、生産、品質保証と、加工食品の一連の流れを経験したことになります。学生に対しては、このような経験を元に、単に担当科目の内容を教えるだけでなく、学んでいることが社会とどう関わるのか、社会人として何が必要とされているのかを伝えていきたいと考えています。

皆様が興味を持ちそうな商品開発と研究について補足します。商品開発では、一般用途の加工食品だけでなく、介護用やダイエット

用という特殊な用途の商品開発も手がけました。また、社内全商品の工業化可否の最終判断を担っていた時期もあるので、味の素ブランドの国内加工食品であれば、その製造技術の大半は分かります。研究では、担当教科に関連する食品の健康機能、新規製造法開発、肥満に影響する食生活といったテーマだけでなく、作物の耐病性、切り花の鮮度保持、環境からの有用微生物単離、有機低分子化合物や酵素の単離と利用、遺伝子組み換えによる有用物質の発酵生産などの研究を行った時期もあります。食品メーカーの内部事情を知りたい、又は私の経験分野に関する商品開発・工業化や研究内容で質問や相談をしたいという方は、是非ご連絡ください。

余談ですが、趣味は筋トレで、NSCA-CSCSというトレーナーの資格も持っており、体づくりをライフワークにしています。そのため、筋トレの質問も受け付けますので、学内で見かけたら、お気軽にお声掛けください。

教授 御堂 直樹

腎領域における管理栄養士の活動 ～国内・海外での情報交換、情報発信の取り組み～

日本腎栄養代謝研究会は、腎栄養学の進展と学術の向上、国民の健康増進、福祉に寄与することを目的に、管理栄養士が中心となり活動する研究会です。慢性腎臓病では、腎機能低下の遅延を目指した食事療法を、末期腎不全(腎代替療法期)では、合併症の発症および重症化の回避とADL、QOLの維持を目指した食事療法が必要です。とくに、慢性腎臓病では、末期腎不全への移行を防ぐために早い段階から管理栄養士とのかかわりが重要です。また、高齢化が著しい末期腎不全では、患者のサルコペニア・フレイル予防の栄養管理も注目されています。これらの食事療法や課題は、世界共通です。現在、本会では、慢性腎臓病および末期腎不全のレシピコーナー開設の準備を進めるとともに、役員がInternational Society of Renal Nutrition and Metabolism (ISRNM)の委員として腎栄養の情報発信等に携わっています。また、Total Nutrition Therapy(医師およびコメディカル向けのグローバル臨床栄養コース)の専門コースであるTNT-Renalの日本開催を本会が実施することが決まりました。

私は、本会が、腎領域に関わる管理栄養士において国内に限らず海外での活動も視野にさまざまな情報交換や情報発信ができる場となるよう、そして、患者やその家族の求める支援が提供できる管理栄養士の養成の場となるよう、協力していきたいです。

日本腎栄養代謝研究会 <http://www.jsrnm.jp/>
International Society of Renal Nutrition and Metabolism
<https://www.isrnm.org/>

日本腎栄養代謝研究会 常任幹事
ISRNM patient resources committee member
准教授 北島 幸枝

Bamboo Shoot Rice

Ingredients (serves 2)

Rice	180g
Boiled bamboo shoot	40g
Carrots	20g
Dried shiitake mushroom	2g
(or Raw shiitake)	20g
Chicken thigh with skin	40g
Abura-age (Thin fried tofu)	20g
Mitsuba (Japanese parsley)	5g
☆Water	210ml
☆Instant powder of Dashi	1g
☆Usukuchi (Light) soy sauce	10g
☆Salt	0.5g
☆Sake	5g
☆Sugar	2g



Nutrient Analysis per Serving

Calories	413KCal
Protein	14.9g
Potassium	242mg
Phosphorus	171mg
Sodium chloride equivalent	1.2g

Directions

1. Start by washing the rice thoroughly until the water becomes clear. Strain the water with the sifter.
2. *If rice is low water content, put the water and let the rice soak for 30 to 60 minutes after washing.
3. Cut bamboo shoot and carrots into thin rectangles and boil them about few minutes.
4. Rehydrate, squeeze and cut dried shiitake mushroom into thin slices.
5. Shave chicken thinly.
6. Cut abura-age into half vertical thin slices.
7. Cut mitsuba into 2-3cm sections, blanch, put them in cold water and squeeze out.
8. In a rice cooker, put rice of 1. Add vegetables, mushroom, chicken and abura-age of 2-5, and the ingredients of [☆]. Turn on the rice cooker.
9. Serve the bamboo shoot rice into a rice bowl and decorate mitsuba of 6.

Points

- You can substitute various mushrooms for bamboo shoot.
- You can substitute various shellfishes for chicken. It is delicious, too.
- If you add some oil (for 10g or less) when you cook rice of 7, it gives gloss to the surface of the rice. Furthermore, you can increase caloric intake.

【 The recipe provider: Toshie Osato RD at Date Clinic in Hokkaido 】

会員提供の腎臓病食レシピ一例

医療情報学科 新任教員紹介

AIにより高機能化する医療情報システムのアーキテクチャ

本年度、本学に着任した山本純一と申します。私はこれまでは企業の研究開発部門でシステムアーキテクチャの研究や人工知能(AI)・機械学習システムの開発などに携わってきました。

システムとは不思議なもので、適切に組織化されたシステムは単なる構成要素の集まり以上の能力を発揮します。人間の体は多数の細胞から構成されていますが、細胞をただ集めただけでは人間として機能しません。たまたまバスに乗り合わせた数十名の乗客は終点に着くと離散してしましますが、目的を以って組織化された数十名の集団は偉業を成し得ます。情報システムでも同様に、複数のアプリケーションを適切に連携させると個々のアプリケーションの総和以上の価値を提供できることがあります。

侵入検知システムの実用的な運用に向けて

本年度、医療情報学科の助教として着任いたしました、木村知史と申します。私は、侵入検知システム(Intrusion Detection System: IDS)の研究に従事しています。IDSは、ネットワークの通信を監視して、異常があった場合に管理者にアラートを発するシステムです。しかし、IDSは一般に大量のアラートを発するため、IDSを適切に運用することは容易ではありません。そこで私は、特に異常だと判定されたIDSアラートを強調して描画する視覚化システムや、過去のアラートの傾向から将来の値を予測する手法を提案し、IDSの実用的な運用に向けた取り組みを行なっています。図1は視覚化システムの例で、横軸が送信元IPアドレス、縦軸が送信先IPアドレス、赤色の点が異常だと判定されたアラートを示しています。IPアドレスのオクテットごとの検知割合に応じてアラートを不均一にプロットすることにより、IPアドレスの階層構造を失うことなく画面領域を最大限活用する視覚化が可能になっています。

人の聴覚能力を理解する音声音響信号処理

2020年4月に医療情報学科の助教として着任いたしました、安枝和哉と申します。今回このような自己紹介の機会をいただき大変感謝いたします。

私の専門分野は音響工学で、主に音声信号を対象としたデジタル信号処理の研究を行っております。具体的には、スピーカから放射された音を特定の領域のみに再生する技術や、複数の重なった音から欲しい音だけを抽出する技術などを研究しています。

私たちが普段聞いている音は空気の振動です。人が感じることのできる音の範囲は $20\mu\text{Pa}$ ～ 20Pa と言われており、通常の会話などは 0.02Pa 程度です。これは大気圧 101325Pa と比べると非常に小さな振動です。人はこの小さい振動の微小な変化を捉えることによって、音声内容の理解や音声方向の知覚を行っています。私は、人が持つこれらの優れた知覚能力を情報処理技術として研究し、医療分野へ展開していくことは、社会にとって非常に有意義なものになると感じております。

現在、新型コロナウイルスの流行によって、直接の会話によるコミュニケーションが大きく制限されています。Web会議やオンライン

私はAIにより高機能化していく医療アプリケーション群が柔軟に連携できるシステムアーキテクチャの実現に興味があります。画像診断支援や医療ミス防止など様々な領域でAIの活用が期待されています。AIによる個々のアプリケーションの高機能化に留まらず、例えば診断支援の結果を医療ミス防止に利用するなど、複数アプリケーションを連携させることでより高度な医療サービスを提供できる可能性があります。またAIが学習して知識を獲得するには大量のデータや計算能力を要しますが、例えば複数の医療機関のシステムが連携することでAIの学習を効率化できる可能性もあります。

医療情報システム分野でのこのような研究および教育活動を通して、微力ながら医療の発展に貢献できれば本望です。

准教授 やまもと じゅんいち
山本 純一

今後も情報セキュリティ分野の発展のために、これまで以上に研究活動に力を注ぎたいと思っています。

助教 きむら ちし
木村 知史

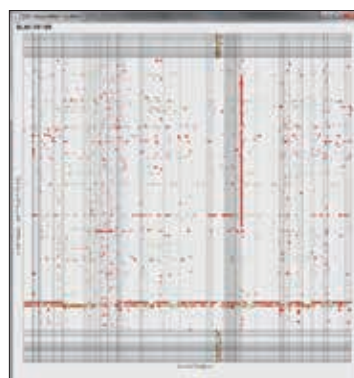


図1. 異常なIDSアラートを強調して描画する視覚化システム

ン講義が主流になり、音声に関して苦勞されている方も多いかと存じます。このような状況で、音響研究者として、また一教員として何かできることはないかと考えております。音でお困りのことがあれば、気軽にお声がけください。

助教 やすえだ かずや
安枝 和哉

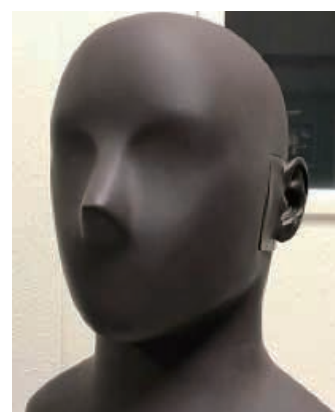


図2. 測定用のダミーヘッドマイク

Tomorrow's Nurseに向けて歩み始めた頼もしい122名の新入生たち

誰もが予測しなかったCOVID-19のパンデミックの長期化により、いのちと対峙する過酷な看護師の労働環境のためにやむなく離職していく看護師に関する報道があります。看護を志す若者が減少するのではないかと危惧をしておりましたが、122名の新入生を迎えました。

新入生は、感染拡大状況により、学習環境が変化する可能性を念頭に置きつつ、日常生活における看護技術を学び始めました。看護技術は、対象者との距離を保って提供することが難しいものが多いです。実習室では、常時、サージカルマスクとフェイスシールドを装着し一定の距離を保つことを意識しつつ演習をしています。4月末現在、感染予防に必要な知識・技術、療養環境を調整する技術を学びました。

ベッドメイキングでは、三角コーナーや四角コーナーに悪戦苦闘し、装着したフェイスシールドを曇らせ、できるようになりたいと教員にアドバイスを積極的に求めながらできるようになるまで繰り返し取り組んでいます。

看護を志した思いは様々だと思いますが、正しい知識と確かな技

術を実践し信頼される看護師になりたいという思いは共通であることが、新入生の提出物から読み取れます。このような新入生たちですから、演習の際には、看護師役・患者役・観察者役を通して感じたことを率直に話し合うことができています。豊かな感受性と真剣に学習に取り組む新入生の姿に頼もしさを感じます。

高齢社会、いつどこで起こるかかわからない災害やパンデミックの際に必要とされる看護、常に確かな答えがあるのではなく、ひとり一人の対象者、さまざまな状況のその中で、対象者を中心として自ら考え、実践できる自律した看護師に向けて歩み始めた122名の新入生と共にこれから4年間学び続けることが楽しみです。

基礎看護学領域 准教授 うちやま たかこ 内山 孝子



With コロナ時代における学生たちの学び

～新学期も対面講義と遠隔講義を併用して行っています。実際の学生の様子をお伝えします～



新型コロナウイルスの影響によって、私達は2年生から突然オンライン講義になりました。慣れない講義形態に戸惑ったのは私達学生だけでなく、先生方や事務の方々も普段の講義以上に苦労があった大変な状況だったと思います。ともすれば、講義を提供するだけで精一杯になりがちな状況下でも、常に学生第一の姿勢を徹底して頂いていると感じます。VOD講義で学生の都合の良いタイミングやペースで学習が出来るようにしたり、匿名のチャッ

トで講義中に意見交換や質問がしやすい環境を整えたり、今年度4月からは感染警戒各レベルを基準とした登校日数などの大学の対応が提示されて対応が明確化したなど、運営改良し続けて下さいました。また、学生の精神的なサポートも積極的にして下さい、感謝しております。今後実習がどうなるのかなどの不安もありますが、先生方や事務の方々のご尽力に比べられるよう、私達学生も出来る範囲で頑張っていきたいと思っています。

東が丘・立川看護学部 看護学科 3年 まつい あいこ 松井 藍子



去年は遠隔授業が大半を占めていたため、通学時間となる時間を他のことに当てることができました。しかし、授業時とプライベートの切り替えが上手くできず、オンデマンド授業や課題を後回しにしてしまうことも多くありました。そのことによって、幾度となく夜中に課題に追われることとなり、睡眠不足が続いて

体調が優れなかった日もあります。

今年の4月からは対面授業が増えたことによって気持ちも引き締まり、授業時とプライベートの切り替えができるようになってきました。対面授業でもZoomを使用する授業では先生の声が聞き取りづらいといった悩みはありますが、遠隔授業と比べると周りにテレビやベッドといった誘惑が少なく、学習意欲が向上したと感じます。これからも状況に合わせて授業形態は変化していくため、スケジュール管理を徹底していこうと思います。

東が丘看護学部 看護学科 2年 えい ちょうろう 衛 長韵



東が丘看護学部では遠隔授業と対面授業の両方が行われています。私は高校生の時、遠隔授業の経験があまりなく慣れていなかったため、最初は不安と焦りでいっぱいでした。でも今では遠隔授業も数を重ねるにつれ徐々に慣れてきました。私は通学時間が長いということもあり、遠隔授業は家で受講でき時間に余裕

があるので便利なツールだと思っています。しかし、遠隔授業は先生との距離が遠くなってしまい、授業の質問や学校生活の相談な

ども思うように出来なかったり、友達との相談や意見・情報の共有がスムーズに出来なかったり時々不便に感じると同時に、ちゃんと勉強になっているかな、など不安に思うことも多々あります。その分対面での授業が可能な日には先生たちにも沢山質問して理解を深め、友達とも相談しながら楽しく・懸命に勉強に励みたいと思っています。目標であるTomorrow's Nurseを目指しこれからも遠隔授業や対面授業を有効に使い、また地域活動・海外交流にも積極的に取り組み努力を重ねていきたいです。

東が丘看護学部 看護学科 1年 きどころ まひろ 城所 麻裕

新時代を担う看護師となることを

新1年生のみなさま、入学おめでとうございます。世界中が新型コロナウイルスのパンデミックと対峙する災害規模の逆境の中で、この立川看護学部には123名の清原で希望あふれるみなさまを迎え入れることができましたことを心からうれしく思います。

4月1日の歓迎式には、感染症対策を徹底しながら、立川キャンパスに新1年生と教職員、事務スタッフが一堂に会しました。駆けつけてくださった本学副学長でこれからの看護学の修得を強力に支援、指導して下さる災害医療センター院長の土井先生から「良き看護師」になるためには「良き人」となること、そのためには4年間の大学生活の中で、看護に必要な基本的な知識と技術を身につけることだけでなく、サークルや部活動、ボランティア活動、遊ぶことを通して「人間らしさ」を養うことが大切であるとの励ましと熱意のこもったお話をいただきました。学部長の山西先生からは、「自ら調べ自ら考えること」を大切に、自分の道を切り開いていける看護師に成長できるように4年間を過ごしてほしいとのお話をいただきました。これらのお話から皆さんは、看護学生としての、そして未知なる4年後の看護師としての自分の姿を描き始めたのではないのでしょうか。

4月2日には2教室に分かれてガイダンスを実施しました。2021年度は対面授業を行いながら、オンライン授業もそのメリットを活用して、ハイブリッドで進めていきます。そこでガイダンスではLMS（Learning Management System）のWebClassやビデオ会議ソフトZoomの設定や使用方法の説明、接続テストなども行いました。初めは慣れない様子でしたが、さすがにスマートフォンなどを使いこなしているデジタルネイティブ世代のみなさんは、すぐに難なくパソコンを操作しているようでした。これからの4年間でリテ

ラシーを身につけ、テクノロジーを活用して、未来に向けてデジタルトランスフォーメーションを活用した新たな看護を創造してくれる看護師になるのだらうと頼もしく思いました。

4月7日には東京国際フォーラムで2部制の入学式が挙行され、立川看護学部は午後から千葉看護学部、大学院の新生と合同で参加しました。会場受付でのサーモグラフィーによる検温や手指消毒に対応する様子は、1年生でありながらWithコロナ時代に受験という人生の大きなハードルを乗り越え、これからもその時代の先端をたくましく拓いていこうとする若者の姿が見えました。

入学にあたり、みなさんがこれから学んでいく看護の神髄である「ケア」というものについて、著名な哲学者であるミルトン・メイヤーが述べている言葉を贈ります。「他の人々をケアすること、他の人々に役立つことによって、その人は自身の生の真の意味を生きているのである。この世界の中で私たちが心を安んじていられるという意味において、この人は心を安んじて生きているのである。それは支配したり、説明したり、評価したりしているからではなく、ケアし、かつケアされているからである。」これから看護を学ぶみなさんには、今、この言葉を理解することは難しいかも知れません。しかし、私たちは、みなさんの4年間がこの言葉の意味することに繋がっていくための良き4年間であることを願っています。そしてみなさんが新しい時代を力強く担う看護師として羽ばたいていくことを心から祈っています。共に学び、共に進んでまいりましょう。

成人・老年看護学領域 教授 青木 和恵（1年担任）
看護基盤学領域 講師 堀田 昇吾（1年副担任）

新任教員の自己紹介とご挨拶



4月1日付で立川看護学部看護学科の基礎看護学に着任いたしました松谷（マツヤ）弘子と申します。学報「こころ」にご挨拶させていただく機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

私は、前年度まで独立行政法人国立病院機構及び国立高度専門医療研究センターに勤めており、前施設では東京医療保健大学の五反田・東が丘・立川キャンパスの学生の皆様の実習を受け入れさせていただいておりました。今年度からは本学の皆様や臨床との連携を大切にしながら、建学の精神であります「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を大切に務めてまいりたいと存じます。

昨年よりコロナ感染拡大により講義・実習・会議等がリモートへ変更となり、今年度も厳しい状況が考えられます。しかし、どのような状況であっても、立川看護学部の特徴の1つである災害に伴う防災・減災活動も含め、あらゆる場で最善の看護が実践できる質の高い看護師の育成に向けて一層の努力をしてまいりたいと思っています。

皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

基礎看護学領域 教授 松谷 弘子



本学での環境に感謝し、学びの楽しさ、看護の創造性や深さを学生の皆様に伝えながら、本学と専門分野の発展に貢献できるよう努力する所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の主な経歴は、1990年より公立の急性期病院に勤務後、2001年に皮膚排泄ケア認定看護師、2016年特定行為研修を修了し、三次救急・急性期医療、回復期・慢性期医療（在宅、施設を含む）、小児から終末期まで、あらゆる現場での創傷ケアの実践と、チーム医療における看護師の役割の探求、地域医療連携の構築に携わって参りました。また、2009年より東京大学大学院、2015年より金沢大学大学院において創傷ケアの研究活動を継続しております。「人は宝」という恩師の教えを胸に刻み、Think big, Act smart, Enjoy research! の精神で、新たなステージを歩んで参りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

成人・老年看護学領域 准教授 内藤 亜由美

千葉看護学部 オンライン就職説明会の開催

千葉看護学部の1回生は4年生となり、初めての就職活動が本格化しています。学生のキャリア支援として、履歴書や小論文の書き方、面接対策などの支援講座の開催の他、本学部独自の就職・進学ガイドブックを作成し、就職・進学活動に関する情報提供等を行っています。

2月27日（土）には、15医療施設の看護部や関係者の方々にご協力いただき、就職説明会をオンライン配信（ライブ）で開催しました。ご協力いただいたのは本学部の実習先である11施設と、学生から希望が多く挙がった千葉県内と都内の4施設です。午前中は本学部と連携関係にある独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）の実習施設である6病院についての説明会、午後はJCHO以外の施設とし、各施設の理念や看護部の紹介などの説明を全体で聞いた後、ブレイクアウトルームで希望する施設に分かれて個別相談を行いました。説明会には看護部長や就職担当の方以外にも、本学立川看護学部の卒業生など卒後1～4年目の先輩看護師もご参加下さり、体験談を聞くことができました。

学生はリクルートスーツを着用して参加し、個別相談では、卒業後の継続教育や認定看護師資格取得などの支援体制、休暇や福利厚生の制度など、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みについて積極的に質問していました。

説明会参加後のアンケート結果からは、学生が本説明会を通して

病院を比較検討できたこと、先輩看護師の話から病院内の雰囲気や人間関係を感じたり、自己の目指す看護を考えたりする機会になったことがわかりました。今後も、様々な学生へのキャリア支援を継続してまいります。

学生生活支援委員会

あいかわ ゆみこ
愛川 由美子
おぐろ みちこ
小黒 道子



先輩看護師の皆様によるオンライン個別相談

千葉看護学研究科

大学院

2021年4月 千葉看護学研究科を開設しました

千葉看護学部では、皆様の多大なるご鞭撻・ご協力の下、千葉看護学研究科を2021年4月に開設しました。初年度となる本年は9名の現役看護職の皆さんが入学しました。

研究科開設の背景として、日本が少子超高齢社会における持続可能性をめざし、地域包括ケアシステムを選択し、今まで以上に機能分化が促進されることとなった現状があります。

船橋キャンパスが立地する千葉県をみると、医療圏として大都市型と地方都市型の両者を有しているという特徴があります。全国的に高齢化が進んでいる一方、千葉市以北の地域では人口の流入が続き、これに伴い子どもの数も増加傾向にあります。このように千葉県における保健医療の課題は、多様・複雑であり、「地域包括ケアシステム」を適切に構築・推進する必要性が高い地域です。保健医療に対しては、地域の実情に応じて人々が住み慣れた地域での健康な生活を継続できるよう、多職種との連携・協働により健康生活を支援し、他看護職を牽引できる高度な実践能力をもつ看護人材の育成が求められています。

こういった課題に応じるため、千葉看護学研究科は、組織・チームでの実践を牽引・指導することのできる高度専門職業人として、看護の本質を「掴む」能力、一人ひとりに必要な保健医療福祉機関、人々等を「繋ぐ」能力、社会実装に向けて研究を実施し、成果を「示す」能力を有する人材の育成をめざし開設いたしました。

研究科のカリキュラムは、多職種で担うケアの推進に必要な知識・スキルに呼応できるものとしています。看護の機能を推進する必修科目として、看護機能推進特論・演習、ヘルス・グローカリゼー

ション、保健情報リテラシー等の科目を設置しました。また、研究科で学ぶ学生ごとの推進したい看護機能に応じて、コミュニティ・ケア、生涯発達看護、看護職キャリア支援、および看護マネジメントから選択履修することができます。さらに、学位研究を通して、看護機能の推進に貢献する社会実装をめざした研究を実践する能力を育成していきます。

授業は、看護職として働きながら現場の課題を解決していく力をつけたいという意欲をもつ方々に入学していただけるよう、週末および連休期間等に開講する時間割としています。また、インターネットを使った遠隔授業を主としていますので、遠方からでも効率的に授業に参加することができます。新入学9名の皆さんは、4月当初は慣れないPC操作に四苦八苦する様子も見られましたが、「まだまだ学ぶことがたくさんあることがわかり楽しい」と前向きに取り組んでおられます。

この度の未曾有といわれる新型コロナウイルス感染拡大において、私たち医療者には、危機対策のためのネットワーク構築が課題としてつきつけられました。こういった社会変化にも呼応し、多職種で担うケアにおいて看護に求められる機能を明確にし人々をつなぐとともに、実践を牽引できる人材の育成を行っていききたいと考えています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

千葉看護学研究科長 みやもと ちづこ
宮本 千津子

有事の際にも看護職としての専門性を発揮するために!!

令和3年2月25日(木)10:00～和歌山市のシンボルスポットの和歌山城砂の丸広場において、近年多様化し、複雑化する災害に対応するための訓練が和歌山市中消防署主催で実施され、本学学生が参加しました。

訓練は、バス会社から45人乗りの新型コロナウイルス感染症対策が施された大型観光バスを提供していただき、和歌山市中消防署員約70名と本学の学生1年次生から3年次生までの32名が、中消防署長らと八島学部長ら教職員12名が見守る中、実災害に近い形で多数傷病者対応訓練として実施されました。

この訓練の想定は、国道交差点において、大型観光バスとマイクロバスの衝突事故で、信号待ちをしていた歩行者が事故に巻き込まれ負傷者が多数発生したというものです。本学学生は負傷者役、事故の目撃者役、実際に119番通報する通報者役等を担当しました。

消防隊は、指揮調査隊の部隊統制下で、各隊連携し負傷者の早期救出・救急処置・迅速な医療機関への搬送を行うことを目的として活動しました。また、新型コロナウイルス感染症対策として、消防隊員は、検温を実施し体調不良がないことを確認した上で訓練に参加するとともに、ゴーグル、サージカルマスク、プラスチックグローブを着装し、傷病者役のバイタルサインの確認を行う際は、接触を最小限に抑える形での訓練としました。

本学学生は、サージカルマスクを着用し、訓練開始前に検温を実施した上で本学が定める「新型コロナウイルス感染症疑いの定義」に非該当であることを確認した上で訓練に参加しました。

訓練では、119番通報から始まり、通報を受けた消防署員が現場に指揮本部を設置し、負傷者の救出、治療の優先順位を判断するトリアージ、救急処置、医療機関への輸送などの対応に連携して当たりました。

その中で、「早く助けてくれ」「何をしているんだ」などと消防署員に声を荒げる役の学生もいて、訓練会場は、実際の事故現場さながらの混雑や騒然とした様子も再現される中、居合わせた救助役の学生は大学での学びを活かし、消防隊とともに負傷者の搬出救護を

行いました。

応急救護所（救急隊、救急救命士、医師及び看護師らにより負傷者の観察・処置を実施し、緊急性の高い負傷者は誰なのかを見極める場所）も設置され、トリアージも一次・二次と状況の変化にも応じながらなされ、急変への対応も実施されました。

訓練に参加した学生からは、「傷病者への声かけの重要性、消防隊への状況報告や連携の困難性がよく分かった。」「今後も続けていきたい。」「やじなどもリアルで、実際の現場のパニックもこういう感じなのかなと思った。消防隊の方は冷静に対応されていた。」「将来、看護師としてこういう現場に行くこともあるのでよい体験になった。」等の感想があり、大変有意義な訓練となりました。

本学では4年次に「災害看護援助論」の学びがありますが、医療機関での看護師の仕事だけでなく、市民レベルの場面でも専門性を発揮できるよう、理論を現場で活かせるよう今後も地域との連携を図りながら学びの機会を設定していきたいと思います。

教授 いりこま かずみ
入駒 一美



大型バスに乗っていて状況を説明する役の学生



トリアージの様子



救助を手伝う学生たち

オンラインでの研究報告会もスムーズです！—医療保健学研究科修士課程

医療保健学研究科修士課程は、8領域（看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、滅菌供給管理学、医療栄養学、医療保健情報学）があります。M1、M2、教員の総勢100名弱が一同に集まる報告会を、今までも年2回開催してきました（4月：新M2中間報告会、3月：M2成果発表会：修了者対象）。1学年で25名～30名弱の発表となりますので、終日8時間にも及ぶ体力勝負のディスカッションとなります。

コロナ禍で全一同に会した発表会ができなくなってからはオンラインによる成果発表会を開催しています（写真）。本研究科は働きながら学べる大学院を標榜しています。コロナ禍で体力的にも疲労が蓄積している医療の最前線で働いている院生も多いことから、大学までの移動時間がないことはメリットだと思います。また、予想以

上に質疑応答が活発に行えており、運営もスムーズにできることが分かりました。

発表者のネット環境が不安定となって音声が入切れることや、だれかが音声オフにしておらずネコの鳴き声が聞こえてきたり、とハプニングもありますが、ご愛敬です。

コロナのおかげで（？）、院生とともに教員もICTの使い方を日々学んでいます。これからも、コロナに負けず、研究活動をすすめていきたいと思っています。

教授 たにもと まりこ 谷本 真理子



コロナ禍における仕事と学業の両立



私は、現在、中規模病院の看護管理者として勤務しながら、博士課程に在籍しています。私が、博士課程の進学を決めた理由は、修士課程修了後、いくつかの研究を行い、一定の成果が得られたものもありましたが、系統だった研究の推進やスタッフの指導といった点から、改めて自分自身の学び直しと研究能力を高め

ることの必要性を感じたことでした。

本大学院は、科学的な視点から看護学を探究し、エビデンスを創出し、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目的とし、複数の指導教員による指導体制が整備され、大変熱心にご指導をいただいています。現在は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン授業が行われていますが、個々の研究進捗状況に応じて、丁寧にご指導いただきながら、研究を進めています。1年次は、研究テーマに関連した先行研究を集め、リサーチクエスションにつなげるための時間をこれまでに経験したことがないほど、多くの時間を費やしてきました。先行研究のまとめは、自分の研究テーマの位置づけ、意味づけをする上で、大変重要なことであり難しいことでもあることを実感した一年でした。また、この一年は、看護管理者として新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのさまざまな対応に追われるなか、いかに空き時間を有効に活用しながら、仕事と学業の両立ができるのか自分自身との闘いでもありました。それ

は、時間的な問題だけではなく、研究を進めるプロセスで行き詰ったり、自分の無力さに落ち込んだりと色々ありました。しかし、「研究に取り組みたい」と自分で決めた以上、与えられた環境のなかで、覚悟を持って日々精進して参りたいと思います。

そして、コロナ禍の状況が一日も早く収束し、先生方や同期らと平穏に集える日がくることを願うばかりです。

博士課程 2年 看護学領域 たかはし ようこ 高橋 陽子



看護管理者と新型コロナウイルス感染症への今後の対応について打ち合わせをする様子（本人は右から2番目）

実践力を備えた保健師養成を目指して

相次ぐ災害やCOVID-19の感染拡大とともに健康危機における保健師の活動がマスメディア等で取り上げられ、その認知度が高くなりつつあります。今日、このような健康問題の複雑困難化に対して「社会の多様な健康課題に対応できる保健師の養成」が喫緊の課題とされています。保健師の仕事は、ご存知のように個人・家族をケアするだけでなく、その背景にある社会の問題を察知し、原因を探索して根本的な解決を図っていくことです。そのためには、問題の原因や広がり、深刻さを探索しながら地域社会・職場全体に働きかけて解決していく高度な能力が求められます。

保健師教育は、この高度な能力を身に付けるために、今、大きな転換期を迎えようとしています。本稿でいう保健師教育とは、就業保健師の70%が自治体の保健師（厚生労働省、2018）となっていることから主に行政保健師養成に力点を置くものとします。この課題の背景には、1）保健師教育の在り方と2）保健師の人材育成の問題があります。保健師教育の在り方については、2013年文部科学省は、①保健師・看護師統合カリキュラム（看護師と保健師教育を統合して実施）、②学部選択制（学内選抜あるいは希望者が選択）、③大学院、いう3つの選択肢を示し、各大学のポリシーに則り方向性を決めることになりました。

東が丘看護学部は、2019年4月に高度実践公衆衛生看護学大学院として開設しました。大学院での保健師教育は、先に述べた通り“地域の個人・家族、集団、地域への直接的な保健サービスなどの提供・マネジメント”や“地域の健康課題を解決する方策の探求、施策の企画、立案、実施および評価”などが実践できる質の高い保健師の養成

に不可欠とされています（全国保健師教育機関協議会教育体制委員会）。本領域では、これらの技術を身につけるために多様な科目の配置や演習および実習の充実を目指し工夫をしています。

保健師といえば、健康教育のような一次予防（健康増進）や一歳半健診などの二次予防（早期発見・早期対応）中心の活動のイメージがあります。しかし直接的な保健サービスの提供に関しては、児童虐待等のいわゆる困難事例への支援方法（ハイリスクアプローチ）も求められます。本領域ではこれらの支援技術を身につけるべくケースメソッドやロールプレイなどを駆使しながら技術の獲得を目指しています。また施策の企画・立案・実施および評価といった行政保健師に不可欠な技術に関しては、データに基づいた地域の課題抽出に必要な疫学統計学の教育にも力を入れています。そしてこれらを可能にする教育体制を整えています。

最後に、保健師の人材育成という課題については、引き続き保健所等関係機関と連携を図りながら、実践力を備えた保健師養成という共通の目的を達成する努力をしていきたいと思っています。



高度実践公衆衛生看護コース
1年生の皆さん

高度実践公衆衛生看護コース
教授 大越 扶貴

「コロナ禍での助産所実習」～助産師は黒子である～

月がきれいな夜中、陣痛発来したお母さんが助産院にいらっしゃいました。「陣痛きました～」と笑顔で玄関に立つお母さんは、これからお産をするとは思えないくらい落ち着いていました。お産をする部屋は助産院の2階。布団が敷かれた畳の和室は、オレンジ色の手元ライトで照らされ薄暗く静かで暖かい空間です。まずは布団に横になり、赤ちゃんの心拍を確認します。その後、「お母さんどうする？」と陣痛中の過ごし方をお母さんに委ねます。痛みがないときは体操や談笑をして過ごし、陣痛が来た時は楽な姿勢で深く息を吐き呼吸のコントロールをしていました。今までの実習では、陣痛が無い時も呼吸が荒く辛い表情でベッドに横たわるお母さんが多かったため、落ち着いて過ごすお母さんの姿に衝撃を受けました。助産師さんはお産の進行状況を確認しながら、静かに傍で見守ります。希望があれば腰をさすったりツボを押して、お母さんがウトウトしてきたら部屋の隅で静かに見守ります。私は、お産はお母さんが主体と分かっていたものの、直接的なケアをたくさんすることが助産ケアだと思い込んでいました。しかし、必要時はサポートをしてそれ以外は傍で寄り添い、空気に溶け込んでいる助産師さんの姿を見て、「助産師は黒子である」とはまさにこのことだと思いました。

そして迎えたお産は、静かで穏やかでした。生まれた後は、お母さんと赤ちゃんは同じ布団で過ごします。穏やかに眠る赤ちゃんを、優しく見つめるお母さんの姿が印象的で、幸せな空間でした。産後は、アロママッサージをしながらお産の振り返りをしました。お母さんは「暗く静かな部屋でリラックスできた」「自分で産んだと思える」「傍にいてくれて安心した」と笑顔で話されていました。リラックスすることで分泌されるホルモンにより、女性の産む力を最

大限に引き出したお産に繋がると言われています。今回のお産は、リラックスできる環境と、傍にいる安心感により、女性の産む力を最大限引き出した、静かで穏やかなお産になったのだと感じます。そして、助産師さんの黒子のような関わりが主体的なお産に繋がったことが分かりました。

お産はお母さんが主体。ケアをしてあげるという考えは助産師の自己満足です。正常なお産の経過に必要なケアを行いながら、お母さんの安心とリラックスのためにサポートをするという、助産師の重要な役割を学ぶことができました。

助産院では、感染拡大予防のため、面会人数の制限、産前クラスがオンラインに切り替わるなど、コロナ禍での制限があります。しかし、感染対策を徹底した対面による交流の場も設けられ、母親が孤立しないような取り組みは続いています。そして、コロナ禍であってもお母さんへの温かい関わりは変わりません。

環境や状況を問わず、全てのお母さんがリラックスして主体的なお産ができるようなサポートができる黒子のような助産師を目標に、今後も日々精進していきたいです。



修士課程2年 高度実践助産コース 中川 愛

大学院プレセミナー実施

和歌山看護学研究科が開設されて2年目を迎えました。和歌山看護学研究科では独自の取り組みとして、入学前に入学予定者を対象に大学院プレセミナーを実施しています。プレセミナーの目的としては、学生は全員看護職として働いている社会人であり、入学までの間に文献検索の方法を学び、自分の関心のある内容についての文献を読んだり英語に触れることで、大学院の講義や演習を少しでもスムーズにスタートさせることがねらいです。また、入学前から教員や学生と顔を合わせ学ぶことで、大学院生活に対する不安の緩和や、学ぶことへのモチベーションの維持につながればと考えています。プレセミナーは3回シリーズで実施しており、第1回は大学院についてのガイダンス、第2回は文献検索入門、第3回は英語文献の読み方について行っています。少しでも仕事と大学院との両立についてイメージできるよう3回とも大学院と同じ平日の18時から開始し、また、和歌山県内だけでなく大阪府からの学生もいることから仕事の都合やCOVID-19の影響等をふまえ、対面と遠隔を学生が自分で選択できるようにし、欠席した場合でも後日録画を配信するなどのサポートを行っています。

私は、第3回の英語文献の読み方について昨年も担当した近藤講師とともに初めて担当させていただきました。英語は看護学生の時以来、勉強していなかったという学生も多かったのですが、講義の後半には短い文章を悪戦苦闘しながらなんとか翻訳することができました。入学するまでに自分の関心のある研究テーマについての英語論文を1つ読んでみるという課題も出て、プレセミナーを終了しました。学生の「大学院で学びたい」という強い思いを感じることができ、私自身も良い刺激を受けることができました。

学生からは、「大学院で学ぶイメージができた」「入学前に準備しておく内容について知ることができ、心の準備にもなった」「同期となる学生と入学前からコミュニケーションがとれたので良かった」など良い評価を得ることができました。和歌山看護学研究科では、今後も学生の意見を聞きながら、大学院プレセミナーを継続していきたいと考えています。

包括ケア教育学領域 講師 宇田 賀津



プレセミナーのライド

2年目を迎えた和歌山看護学研究科

和歌山看護学研究科が開設され2年目を迎えました。COVID-19の影響で延期となっていた和歌山看護学研究科開設記念講演会も3月6日に無事終えることができました。東京大学大学院医学系研究科教授の真田弘美先生に「ケアイノベーションー幸福寿命の延伸に向けて」をテーマに遠隔でご講演いただきました。ケアイノベーション開発研究や看護システム開発研究など、最先端の研究について知ることができ、看護研究の素晴らしさを改めて感じるできました。



和歌山看護学研究科開設記念講演会の様子

そして4月4日、和歌山県民文化会館大ホールで和歌山看護学部、和歌山看護学研究科の入学式が挙行され、和歌山看護学研究科は2期生12名を迎えました。全員が看護職として勤務する社会人であり、COVID-19の影響で日々多忙な業務を行いながらも大学院で学ぼうという強い意志をもって入学してくれた学生たちの目の輝きに私たち教員も共に頑張ろうと決意を新たにしました。和歌山県内

だけでなく大阪府から通学している学生もあり、日赤和歌山医療センターキャンパスでの対面講義を基本としながらも、学生それぞれの勤務の都合やCOVID-19の影響により遠隔での受講も選択可能としています。私は必修科目である理論看護学を他3名の教員とともに担当しています。入学してまだ1か月で、現在は看護理論の基本的知識や分類、概要等について学んでいますが、6月頃からは、学生が日々行っている看護実践について看護理論を用いて分析し、プレゼンテーションを行い、他の学生とディスカッションをして理論を深めていきます。昨年の1期生についても毎回時間を忘れるほど活発なディスカッションが行われ、私自身も学生とともに学ぶことができました。2期生に関してもどのようなディスカッションになるのか今から楽しみです。

包括ケア教育学領域 講師 宇田 賀津



講義の様子

助産学専攻科は、今年度21名の新入生を迎えました。

4月7日(水)の入学式は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため午前・午後と分散して実施、助産学専攻科は大学院生などと共に午後の部に参加致しました。ガイダンスは、感染症対策を徹底した上で必要最低限に短縮し、下記の内容で実施しました。

4月1日(木)には健康診断、新型コロナウイルス感染症対策について、2日(金)は専攻科長講話、教員紹介、教育内容の説明、5日(月)、6日(火)はパソコンの貸与、デスクネット使用等の説明、履修登録などの事務説明、テキスト販売を実施し、ガイダンスを完了いたしました。ガイダンスの最後には、簡単な自己紹介を通じた交流の場も設け、全員が揃って課程修了できるよう、この1年間、協同して学修していくことを確認しました。

4月8日(木)より時間割に沿ってwebclassやZoomを用いた遠隔授業が開始されましたが、学生個々のインターネット環境や自宅で

の学習環境についても、十分な確認を行ったため、大変スムーズに遠隔授業が開始できました。学生は遠隔授業の中でも、日々多くの課題に取り組み、グループワーク等でも活発なディスカッションができております。4月後半には、Zoomによる学生の個人面談も実施し、個々の学習状況や健康状態、就職に関する相談などにも応じ、サポート体制も整えています。学生は、緊急事態宣言の延長や、それに伴う対面での実技演習の減少、臨地実習受け入れの可否に関する不安もありながらも、現在自分たちが実施できる学習に精一杯励んでおり、笑顔やモチベーションの向上も見られています。

教授 よねやま まりえ 米山 万里枝



産後ケア研究センター

2016年6月より品川区との官学連携事業として産後ケア事業が開始され、2018年4月、更なる事業拡大に伴い本学産後ケア研究センターが開設され4年目を迎えました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2回の緊急事態宣言が発出され、1回目の緊急事態宣言では、日帰り型は休止しましたがその後は、日帰り型・訪問型におきましては利用者様からのご依頼があれば実施し、電話授乳相談は通常通り受付をしておりました。今年も新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、3回目の緊急事態宣言が発出されております。新型コロナウイルス感染症の収束にはしばらく時間がかかりそうな状況下で、昨年の緊急事態宣言期間より日帰り型・訪問型の利用希望の方が少し増えているようです。出産のための入院期間の短縮や、在宅勤務の増加に伴

い、DVや虐待に関する報告もあり、そのニーズは高まっているといえます。電話授乳相談件数も増加傾向にあります。相談の内容に応じて、緊急性があると判断した場合は医療機関等に紹介し、さらに医療機関受診後の電話相談フォローに繋げて経過を観るなど、きめ細やかな対応をするように心がけております。

今後も区との連携を図りながらこの緊急事態の中で、利用者のニーズに応えるべく、質の保証された良いケアを実施し、問題解決ができるように事業を運営していきたいと思っております。

教授 よねやま まりえ 米山 万里枝
准教授 しまだ しょうこ 島田 祥子

実績報告

	日帰り型／稼働率	訪問型 (件)	電話授乳相談 (件)
2018年度実績	259件／96.3%	304件	315件
2019年度実績	325件／98.2%	344件	639件
2020年度実績	162件／51.9%	127件	922件

放射線看護研修センター

3期生8名の修了と2021年度休講について

入学試験から修了式までの一年間、COVID-19の影響を受け、対面授業もままならなかった3期生ですが、誰一人欠けることなく8名全員が無事にかん放射線療法看護認定看護師養成課程の修了を迎えることができました。オンライン授業に戸惑いながらも、お互いに支え合いながら厳しい時間を過ごした3期生の絆は、より深まったことと思います。大変な状況下の中、関係者の皆様にご協力・ご支援いただきましたことに深く感謝申し上げます。しかしながら、今年度はコロナの影響もあり本課程を休講することと致しました。来年度開講に向け、準備を進めて参りますので何卒よろしくお願い致します。

認定看護師に向けての第一歩を踏み出した修了生たちより、一言いただきましたので紹介させていただきます。

- * 9か月間ありがとうございました。コロナ禍での遠隔授業を中心とした研修でしたが、先生方が遠隔授業でも理解が深まるように教材を工夫して下さり、卒業することができました。同級生とは同じ場所で学びを深めることは少なかったですが、Zoom授業を通じて絆を深めることができたと思います。この研修センターでの学びを現場で活かせるよう、精進してまいります。(M.A.)
- * コロナの状況の中、学習環境を整えていただいた諸先方や大学のみなさまのおかげで全過程を修了することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。学びの中で実習は本当に辛く、くじけそうになった時も支えてくれたのは先生たちと仲間でした。ここでの学びを思い出し、これから認定看護師として活動していきたいと思っています。(N.S.)
- * 東京医療保健大学での学びはご高名な先生方の遠隔授業でのご指導の元、がん放射線療法看護をより深く学びました。がん放射線療法を受ける患者の心に寄り添う看護実践のための知識を得ることができました。この学びを今後も緩めず、自身の看護に活かし、表現しながら、期待に応えていきたいと思っています。ありがとうございました。(Y.S.)
- * 初めてのリモート授業で不安もありましたが、先生方や同期生に支えられ有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。(K.T.)
- * わからないこと、辛いことも一緒に学ぶ仲間がいるから頑張ることができました。焦らず、自分なりに日々前進していきたいです。(M.N.)
- * がん放射線療法について多くの学びを得ることができ、一緒に乗り越えた仲間との出会いは一生の宝物になると思います。この課

程での学びを今後に生かし活動できるよう頑張りたいと思います。(Y.N.)

- * 7月～3月コロナ禍で遠隔授業の中でも、非常に充実した学習を行うことが出来ました。かけがえのない良い仲間にも出会うことが出来、今回学んだことを忘れずにこれから頑張っていきたいと思います。(Y.H.)

* 仲間と学べる楽しさと同時に、レポートと試験勉強、実習課題に追われ寝不足な毎日、今では人生の宝となりました。最後まで丁寧なご指導をしてくださった先生、支えてくれた同期の皆には感謝の言葉しかありません。この感謝の気持ちをいつまでも忘れずに、放射線治療を受ける患者・ご家族のために精一杯サポートしていきたいと思っています。(C.M.)



放射線看護研修センター がん放射線療法看護認定看護師養成課程
センター長 おおしま ひさじ 大島 久二

第55回関東女子バスケットボール選手権大会で 5年ぶり3回目の優勝



本学女子バスケットボール部は第55回関東大学女子バスケットボール選手権大会に於いて5年ぶり3回目の優勝を果たしました。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大につき中止となりましたが、今年はトーナメント戦で実施されました。参加大学は71大学。決勝戦の相手は筑波大学で序盤から激しい攻防が繰り広げられましたが本学の3ポイントシュートなどで筑波大学との差を広げていきました。前半一時逆転されるも、再び3ポイントシュートで筑波大学の流れを断ち切り、後半はリードを許すことなく63対74で本学が優勝しました。

令和2年度 各種国家試験受験結果一覧

令和2年度の各種国家試験の受験結果は以下のとおりです。

受験者数・合格者数の（ ）は新卒者で内数である。

【看護師国家試験】	医療保健学部 看護学科		東が丘・立川看護学部 看護学科			
	令和元年度	令和2年度	令和元年度		令和2年度	
	—	—	臨床看護学コース	災害看護学コース	臨床看護学コース	災害看護学コース
試験実施年月日	R2. 2. 16	R3. 2. 14	R2. 2. 16		R3. 2. 14	
合格発表年月日	R2. 3. 19	R3. 3. 26	R2. 3. 19		R3. 3. 26	
本学受験者数	(110) 113名	(120) 120名	(104) 105名	(98) 101名	(93) 98名	(97) 99名
本学合格者数	(109) 111名	(118) 118名	(99) 100名	(95) 98名	(90) 95名	(95) 96名
合格率	(99.1) 98.2%	(98.3) 98.3%	(95.2) 95.2%	(97.0) 97.0%	(96.7) 96.9%	(97.0) 97.0%
全国平均合格率（新卒）	94.7%	95.4%	94.7%		95.4%	
全国平均合格率（全体）	89.2%	90.4%	89.2%		90.4%	

【保健師国家試験】	医療保健学部 看護学科		大学院 看護学研究科
	令和元年度	令和2年度	令和2年度
試験実施年月日	R2. 2. 14	R3. 2. 12	R3. 2. 12
合格発表年月日	R2. 3. 19	R3. 3. 26	R3. 3. 26
本学受験者数	(19) 19名	(20) 20名	2名
本学合格者数	(19) 19名	(20) 20名	2名
合格率	(100.0) 100.0%	(100.0) 100.0%	100.0%
全国平均合格率（新卒）	96.3%	97.4%	97.4%
全国平均合格率（全体）	91.5%	94.3%	94.3%

【助産師国家試験】	助産学専攻科		大学院看護学研究科 高度実践助産コース	
	令和元年度	令和2年度	令和元年度	令和2年度
試験実施年月日	R2. 2. 13	R3. 2. 11	R2. 2. 13	R3. 2. 11
合格発表年月日	R2. 3. 19	R3. 3. 26	R2. 3. 19	R3. 3. 26
本学受験者数	(18) 18名	(21) 21名	7名	8名
本学合格者数	(18) 18名	(21) 21名	7名	8名
合格率	(100.0) 100.0%	(100.0) 100.0%	100.0%	100.0%
全国平均合格率（新卒）	99.5%	99.7%	99.5%	99.7%
全国平均合格率（全体）	99.4%	99.6%	99.4%	99.6%

【管理栄養士国家試験】	医療保健学部 医療栄養学科	
	令和元年度	令和2年度
試験実施年月日	R2. 3. 1	R3. 2. 28
合格発表年月日	R2. 3. 27	R3. 3. 26
本学受験者数	(99) 99名	(68) 68名
本学合格者数	(85) 85名	(64) 64名
合格率	(85.9) 85.9%	(94.1) 94.1%
全国平均合格率（新卒）	92.4%	91.3%
全国平均合格率（全体）	61.9%	64.2%

（教務部）

1. 概況

- 本学の令和2年度卒業生の就職率は、99.2%です。(昨年100%)
- 文部科学、厚生労働両省による今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、96.0%でした。(昨年98.0%)

2. 各学科の状況 ※各学科の下記データは平成29年度入学生

(1) 医療保健学部 医療情報学科

就職率：95.3% (昨年：100%)

就職希望	就 職	(人)
	未 就 職	41
進 学	大 学 院	2
	大学、専門学校等	0
そ の 他※		0
計		45

その他※：卒業に専念

(2) 医療保健学部 医療栄養学科

就職率：98.6% (昨年：100%)

就職希望	就 職	(人)
	未 就 職	73
進 学	大 学 院	1
	大学、専門学校等	0
そ の 他※		0
計		76

その他※：卒業に専念

(3) 医療保健学部 看護学科

就職率：100% (昨年：100%)

就職希望	就 職	病 院	100
		保健師	1
		他	3
	未 就 職		0
進 学	本学大学院、助産学専攻科		10
	大 学 院 等		0
そ の 他※			3
計			117

その他※：卒業に専念

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科

就職率：100% (昨年：100%)

			計	臨床	災害
就職希望	就 職	病 院	175	84	91
		他	0	0	0
	未 就 職		0	0	0
進 学	本学大学院、助産学専攻科		3	1	2
	大 学 院 等		1	0	1
そ の 他			0	0	0
計			179	85	94

コース別就職率：100% 100%

(5) 助産学専攻科

就職率：100% (昨年：100%)

就職希望	就 職	(人)
	未 就 職	21
計		0
計		21

3. 主な就職先、進学先

医療保健学部看護学科

【就職先】NTT東日本関東病院、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、国立研究開発法人国立成育医療研究センター、国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院、日本赤十字社大森赤十字病院、東京都立小児総合医療センター、川崎市立病院、東京医科歯科大学歯学部附属病院、千葉大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、東邦大学医療センター大森病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、日本医科大学付属病院、国家公務員共済組合連合会虎の門病院、医療法人社団三共会新百合ヶ丘総合病院、医療法人社団明芳会板橋中央総合病院、足立区役所、等

【進学先】東京医療保健大学助産学専攻科、東京医療保健大学大学院看護学研究科

医療保健学部医療栄養学科

【就職先】独立行政法人国立病院機構関東信越グループ、IMSグループ（イムス記念病院）、青梅市立総合病院、エムサービス株式会社、株式会社グリーンハウス、日清医療食品株式会社、医療法人社団桐和会、社会福祉法人若竹大寿会、株式会社クリエイトエス・ディー、ウエルシア薬局株式会社、株式会社ココカラファイン、日本調剤株式会社、株式会社望星薬局、株式会社サンデリカ、タイヘイ株式会社、株式会社コモディイイダ、株式会社ポピンズ、株式会社J P ホールディングス、株式会社こどもの森、警視庁、陸上自衛隊、等

医療保健学部医療情報学科

【就職先】自治医科大学附属病院、株式会社ゼネット、株式会社ソフトウェア・サービス、日本事務器株式会社、東芝情報システム株式会社、富士通株式会社、キーウェアソリューションズ株式会社、株式会社CIJネクスト、株式会社エスピック、システムズ・デザイン株式会社、株式会社ベネッセスタイルケア、社会福祉法人草加福祉会、等

東が丘・立川看護学部看護学科

【就職先】国立研究開発法人国立国際医療研究センター、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、独立行政法人国立病院機構東京医療センター、独立行政法人国立病院機構東京病院、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、国立研究開発法人国立成育医療研究センター、独立行政法人国立病院機構埼玉病院、独立行政法人国立病院機構村山医療センター、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、東京医科大学病院、東京歯科大学市川総合病院、東京女子医科大学病院、東京医科大学八王子医療センター、日本医科大学付属病院、東京都立小児総合医療センター、公立昭和病院、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター、日本赤十字社武蔵野赤十字病院、医療法人財団明理会行徳総合病院、公益財団法人井之頭病院、国家公務員共済組合連合会立川病院、国家公務員共済組合連合会虎の門病院、東京通信病院、国家公務員共済組合連合会九段坂病院、等

【進学先】東京医療保健大学助産学専攻科、東京医療保健大学大学院看護学研究科、新潟大学看護教諭特別別科

助産学専攻科

【就職先】東京大学医学部附属病院、東京慈恵医科大学附属病院、昭和大学病院、東京女子医科大学病院、北里大学病院、日本赤十字社医療センター、国家公務員共済組合連合会虎の門病院、等

(学生支援センター)

令和3年度 学生募集に係る入試実施結果

() は前年度 (単位: 人)

学部	学科	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
医療保健学部	看護学科	(100) 100	(1,119) 1,368	(1,028) 1,279	(294) 342	(104) 114
	医療栄養学科	(100) 100	(274) 244	(254) 220	(230) 206	(98) 101
	医療情報学科	(80) 80	(164) 148	(158) 141	(146) 141	(92) 85
	合計	(280) 280	(1,557) 1,760	(1,440) 1,640	(670) 689	(294) 300
東が丘看護学部	看護学科	(100) 100	(672) 838	(612) 773	(249) 296	(115) 122
立川看護学部	看護学科	(100) 100	(656) 733	(605) 679	(237) 283	(118) 123
千葉看護学部	看護学科	(100) 100	(751) 661	(695) 609	(253) 270	(115) 112
和歌山看護学部	看護学科	(90) 90	(349) 417	(328) 390	(185) 179	(104) 110
助産学専攻科		(15) 15	(58) 60	(55) 59	(20) 22	(20) 21

(入試事務部)

令和2年度 決算報告

(単位: 百万円)

	法人		東京医療保健大学		青葉学園幼稚園		野沢こども園		合計		予算増減
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	
教育活動収入計	43.0	34.3	5,353.1	5,396.1	224.0	231.4	283.3	285.2	5,903.4	5,947.0	43.6
教育活動支出計	71.0	65.8	5,619.5	5,682.7	184.3	174.3	267.3	269.3	6,142.1	6,192.1	50.0
教育活動収支差額	▲28.0	▲31.5	▲266.4	▲286.6	39.7	57.1	16.0	15.9	▲238.7	▲245.1	▲6.4
教育活動外収入計	0.0	0.0	1.6	2.5	0.0	0.0	0.0	0.1	1.6	2.6	1.0
教育活動外支出計	0.0	0.0	36.5	34.1	0.5	0.3	0.0	0.0	37.0	34.4	▲2.6
教育活動外収支差額	0.0	0.0	▲34.9	▲31.6	▲0.5	▲0.3	0.0	0.1	▲35.4	▲31.8	3.6
特別収入計	0.0	0.0	0.0	12.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.1	12.1
特別支出計	0.0	0.0	5.0	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.2	0.2
特別収支差額	0.0	0.0	▲5.0	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	▲5.0	6.9	11.9
予備費	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事業活動収入計	43.0	34.3	5,354.7	5,410.7	224.0	231.4	283.3	285.3	5,905.0	5,961.7	56.7
事業活動支出計	71.0	65.8	5,661.0	5,722.0	184.8	174.6	267.3	269.3	6,184.1	6,231.7	47.6
基本金組入前収支差額	▲28.0	▲31.5	▲306.3	▲311.3	39.2	56.8	16.0	16.0	▲279.1	▲270.0	9.1
減価償却①	0.6	0.5	583.0	550.0	9.4	8.6	7.0	3.3	600.0	562.4	▲37.6
退職金引当金繰入②	0.0	0.0	80.0	84.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	84.0	4.0
資産処分差額③	0.0	0.0	5.0	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.2	0.2
除く①②③収支差額	▲27.4	▲31.0	361.7	327.9	48.6	65.4	23.0	19.3	405.9	381.6	▲24.3

(経理財務部)

＜同窓会会長挨拶＞

本号では、「各方面で活躍する同窓生の紹介」の第二弾として、同窓会における理事2名を紹介させていただきます。現在、同窓会で中心となって活動をされながら、職場でご活躍される同窓生を是非知っていただき、新たな繋がりきっかけになればと思います。

また、この4月にご就任された亀山周二学長とご挨拶させていただく機会を得て、大学の現状を伺ってまいりました。ご就任早々、学生を対象とした学内でのPCR検査をはじめとした各種コロナ対策や、医療現場と連携した新たな教育体制の確立に向けた準備など、各プロジェクトにご尽力されている状況をお聞きすることができました。同窓会とも今後より一層連携を強化し、大学の発展に努力していくことを確認し、ご挨拶を終えました。大学ではコロナ禍に際し、オンラインでの公開講座等も実施しており、これらの行事に参加いただける機会を同窓生の皆様に広く周知できればと考えております。

今後とも東京医療保健大学同窓会を何卒よろしくお願い申し上げます。

東京医療保健大学同窓会 第3代会長 浅香 樹



浅香同窓会長（写真左）と 亀山学長（写真右）

各方面で活躍する同窓生の紹介



市川 典央さん

【株式会社ランドコンピュータ
産業公共事業本部
ヘルスケア事業部】
医療保健学部 医療情報学科 卒
2010年度入学 6期生

《同窓生・在学生等へのメッセージ》
大学の同窓会には、まだまだ発展途上中です。これからも試行錯誤して持続的に同窓会活動ができるように頑張ります。世界がコロナに打ち勝った時には、ぜひ同窓生の皆さんには、同窓会活動に参加してほしいです。皆で同窓会を盛り上げていきましょう。在学生の皆さん、大学の4年間をいっばい楽しんでください。時間を持て余しているならば、選択授業を多く取得するなど大学での活動時間を延ばしてみるのが一興です。そして、ゆくゆくは同窓会員として、一緒に同窓会と東京医療保健大学を盛り上げていきましょう。

《在学中の思い出》
ゼミや大学祭実行委員会の活動、学科の友達との日常等、在学中の思い出は数多くあり、振り返るのがとても難しいです。ゼミでは研究を学会発表させて貰ったり、委員会では学祭の開催に向かって皆で試行錯誤したり、学科の友達とは、世田谷キャンパスのカレッジコートに授業後もずっと残って色々なことをしたり、挙げればいくらでも出てきます。失敗して辛かったこともありますが、その全てが大学での思い出であり、自分の成長に繋がった4年間でした。

《東京医療保健大学に入学したきっかけ》
進路相談で、自分の中で漠然とあった選択肢から「IT」「医療」を組み合わせた教育を行っている本学を紹介されました。オープンキャンパスに参加した際に、自分の中でイメージしていた学びたいと思ったものが幅広く学べる点と、医療情報の分野がとても面白そうに思えた点が決め手でした。

《現在従事している仕事》
現在、中規模大規模病院様向けの電子カルテパッケージシステムの導入・保守メンテナンス業務を主に任されています。どんな仕事を一言で表すならば、「病院様の診療業務や医療制度を確認して、システムを活用した最適な運用を設計し、システム構築していく仕事」になります。

医療機関の現状を踏まえ、システムを活用した最適な運用を設計、構築していく仕事をしています。



木所 由貴さん

【学校法人日本医科大学
日本医科大学付属病院】
東が丘看護学部 看護学科 卒
2011年度入学 2期生

《同窓生・在学生等へのメッセージ》
在学生においては、新型コロナウイルス感染症が流行している今、私たちが学んでいた頃よりずっと大変な環境なのだと思います。同期や先生方に支えてもらいながら、頑張っているの困難を乗り越えてください。その経験はきっと就職した時に皆さんの力になることでしょう。数年後、看護職として一緒に医療の現場で働けることを楽しみにしています。

《在学中の思い出》
交友関係を広げるために何かに所属したいと思っていた中、見つけたのが学友会でした。私は学友会をまとめる執行部の会計に所属し、主にサークルや委員会の運営をサポートする活動をしました。課題や実習と学友会活動の両立は大変でしたが、人とのつながりであったり、社会に出る上で必要なマナーを通して、学ぶことができました。当時の学友会メンバーとは卒業後もずっと仲良くしています。

《東京医療保健大学に入学したきっかけ》
通学するキャンパスが、自宅から通いやすい立地と、東京医療センターが隣接している等、国立病院機構との強い連携から実習する病院が決まっている点に魅力を感じ、入学を決めました。看護師免許の他に保健師免許も同時取得できる教育課程がある点も良かったです。（入学当時）

《現在従事している仕事》
日本医科大学付属病院の高度救命救急センター/CCU部門に所属しています。ここは循環器疾患専門の集中治療室であり、重症心不全や心筋梗塞といった心臓血管系疾患の方が入院されています。ECMO等の補助循環装置や人工呼吸器を装着した患者様が多く、日々緊張感と大きなやりがいを感じながら働いています。

重症患者様と常接する現場にて、日々緊張感と大きなやりがいを感じながら働いています。

～ 役員体制 ～

- ・ 会長 浅香 樹（医療保健学部 医療栄養学科 6期）
- ・ 副会長 深山 佑里（医療保健学部 看護学科 6期）
岡田 遼平（医療保健学部 医療栄養学科 5期）
- ・ 監事 内山 祥子（医療保健学部 医療情報学科 6期）

- ・ 理事 庄司 尚子（医療保健学部 看護学科 6期）
伊藤 雅晴（医療保健学部 医療栄養学科 5期）
伊藤 大輝（医療保健学部 医療情報学科 5期）
市川 典央（医療保健学部 医療情報学科 6期）
宇田川智司（医療保健学部 医療情報学科 8期）
木所 由貴（東が丘看護学部 看護学科 2期）
笠原 麻央（東が丘・立川看護学部 看護学科 4期）

国際交流 International Exchange

第2回グリフィス大学オンライン研修を実施

国際交流委員会では、本年3月17日(水)～23日(火)で、第2回グリフィス大学オンライン研修を実施しました。本学では、3月期はハワイ研修を実施していますが、ハワイ大学からまだオンライン研修を引き受けるのはむずかしいとの連絡を受けました。そこで9月に実施した初回が好評だったグリフィス大学オンライン研修を再度実施することを決定しました。

初回の内容を精査して、グリフィス大学へはあらかじめ改善点をお願いしました。グリフィス大学関係者はその一つひとつに真摯に対応してくださいました。また、初めて扱うアプリの設定や使い方に関しても、9月の研修にかかわった国際交流委員が参加者へきめ細かに支援対応した結果、初回よりもはるかにスムーズに準備を進めることができました。これらが功を奏して、今回の研修は、初回よりもかなり充実した内容となりました。参加者は、チャットや口頭での応答、グループワークなど、多くの機会を捉えて、積極的に英語でのコミュニケーションを図っていました。

9月にも実施したせいか、参加者は12名と少なかったのですが、参加者からは「とても楽しかった」「今後の学習全体への意欲が高まった」「オンラインで、これほどまでに話す機会が多いとは思わなかった」など、この研修を高く評価する声が寄せられました。過去に現地研修に参加した経験のある学生も、「大学での学習自体に関しては、オンライン研修も現地研修とそれほど差があるとは感じなかった」とも述べています。

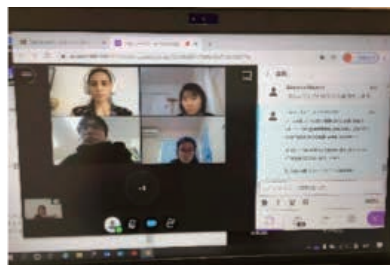
また、グリフィス大学の教員の方々からも、今回、THCUの学生さんへの授業を本当に楽しんだ、みなさん積極的に取り組んでいただき大変嬉しかったとのコメントが寄せられています。

研修後に実施したアンケートでは、研修全体については、とても満足した75%、ある程度満足した17%、いづれも満足した8%という高い評価でした。また、この研修を友人などに薦めるかという質問では、100%「はい」の回答を得ました。

5月に開催した国際交流委員会において、今年度も9月のオーストラリア研修は、第3回グリフィス大学オンライン研修としてオンラインで実施されることが決まりました。開催時期は現在検討中です。各学部・学科の行事等を考慮した上で、学生がいちばん参加しやすい時期を選択して1週間程度の研修を実施する予定です。過去2回のオンライン研修の経験を活かして、内容をさらに充実させて行きたいと思っています。

また、例年3月に実施しているハワイ研修に関しては、現時点では現地研修かオンライン研修かについての判断はむずかしいため、今後もCOVID-19の感染状況とその影響を精査しながら、現地と密なコミュニケーションをとって継続的に検討していくことになりました。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子



英語の授業風景



修了式の様子



修了証書授与

読売新聞「時代の証言者」
掲載のお知らせ

この度、田村哲夫理事長が読売新聞の取材を受けられ、「時代の証言者」シリーズへの掲載が決定いたしました。田村理事長は、本学を運営する学校法人青葉学園の理事長と学校法人渋谷教育学園の理事長を兼任されており、教育界において多大な功績を残しております。本シリーズは、政治、経済、文化、スポーツなどさまざまな分野で大きな足跡を刻んだ著名人にロングインタビューを行い長期連載するもので、田村理事長の回も全30回程度の連載を見込んでおります。初回掲載は7月8日頃を予定しておりますので、是非ご覧ください！